

インターバンクの声（2015年1月19日）

世界中の金融機関や投資家を大きな混乱に陥れたスイス中銀によるスイスフラン対ユーロ相場の上限フロアー撤廃余波が一日中続いた先週金曜日だったが、ニューヨーク市場に入ってからようやく落ち着きを取り戻したようだ。ドルの買い戻しや株式市場が堅調地合いになったのが米1月ミシガン大学消費者信頼感指数が事前の予想を大きく上回ったことが切っ掛けとされているようだが、実際にはその少し前に発表された12月の消費者物価指数が一部で心配されたほど悪い数字ではなかったことで、既に対円や対ユーロでのドル買いが始まっていた。さらに米国債利回りが上昇に転じたことに加え、国際エネルギー機関（IEA）が石油輸出国機構（OPEC）非加盟国の今年の生産高見通しを引き下げたことで、原油価格が上昇したことも市場全体を落ち着かせる材料になっていたようだ。ただニューヨーク市場での反応は、週末を控えたポジション調整的な要素も強く、今週はオバマ米大統領の一般教書演説、日銀金融政策決定会合、欧州中央銀行（ECB）理事会と注目されるイベントが続く折でもあり、元の相場に戻り掛けているとの判断はまだ出来ないだろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。